

## 『心不全パンデミックに チームで取り組む』

循環器疾患は高齢になるほど患者数が多くなり、日本人の死因の第2位となっています（90歳以上の死因では第1位）。近年の急激な高齢化により、慢性心不全の患者数は1年に1万人のペースで増加しており、「心不全パンデミック」を迎えています。

心不全になると繰り返しの入院を必要とすることが多く、特に高齢の患者様は複数の併存疾患を有することから再入院の可能性が高くなります。当院でも心不全入院例は2年間で死亡率20%と予後不良です。入院を重ねるごとに心不全の状態は悪化していくため、再入院を予防することが重要です。当院では以前から週1回看護師、薬剤師、栄養士、リハビリスタッフ、MSWを含めた多職種での病棟カンファレンスを開催していました。更に今年4月からは院内心不全チームを発足し、病棟の垣根を越えて、最適な治療やサポートを提供できるよう、取り組む予定です。

また、患者様一人ひとりに適した治療・ケアが可能になるように、地域との連携強化を目標としています。



## 診療内容

### ・虚血性心疾患（狭心症、心筋梗塞）

急性心筋梗塞に対する緊急カテーテル検査・治療も行っています。また狭心症では最短1泊2日間の入院でのカテーテル検査、日帰りでの冠動脈CTが可能です。運動負荷心電図はトレッドミル、エルゴメータが選択可能であり、患者様の状態に合わせて安全な検査を心がけています。

### ・失神、徐脈性不整脈

繰り返す失神には詳細な問診を行い、不整脈が疑われる場合には植込み型ループ心電計の手術が、神経調節性失神が疑われる場合にはヘッドアップチルト試験が可能です。また恒久式ペースメーカー植込み術も行っています。



(Abbottホームページより)

### ・閉塞性動脈硬化症

間欠性跛行や下肢壊疽を認める際にまずABIでスクリーニングを行い、病変を疑う場合には下肢動脈エコー検査、造影CTでの精査を行います。必要に応じ、カテーテル治療が可能です。

### ・弁膜症

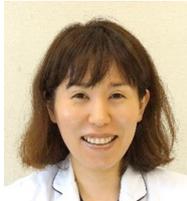
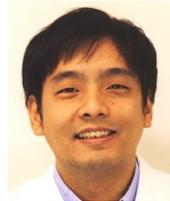
高齢化により増加している大動脈弁狭窄症や心不全に伴う僧帽弁逆流症に対してカテーテル治療の

適応拡大が進んでいます。心エコー検査で詳細な評価を行い、薬物治療でコントロール困難な場合には適切なタイミングで手術可能な施設に紹介しています。

(文責 藤原 美佳)



## 外来担当表

| 外来担当  | 月   | 火   | 水  | 木  | 金  |
|---|---|---|--|--|--|
| <b>午前<br/>診療</b><br>8:30~11:30<br><br>(新患受付<br>11:00まで) | いとう ひろゆき<br><b>伊藤 浩敬</b><br>(地域循環器内科<br>特任助教)<br> | ふじわら みか<br><b>藤原 美佳</b><br>(常勤)<br> | やまだ ひろつぐ<br><b>山田 博胤</b><br>(地域循環器内科<br>特任教授)<br> | みやざき しんいちろう<br><b>宮崎 晋一郎</b><br>(高松赤十字病院<br>循環器内科)<br> | かわばた ゆたか<br><b>川端 豊</b><br>(徳島大学病院<br>循環器内科)<br> |
| <b>午後<br/>検査</b>  |   |   | 経食道<br>心エコー検査  | カテーテル<br>検査・治療   | カテーテル<br>検査・治療   |

※令和6年7月より、藤原医師と山田医師の外来日が変更になる予定です。

## 医局人事異動 (令和6年4月1日付け)

### 昇任

副院長・医療局長 (外科) 居村 暁  
 院長補佐・診療部長 (脳神経外科) 松原 俊二  
 総括部長 (産科・婦人科) 山下 瑞穂

### 転入

院長補佐 (産科・婦人科) 加藤 剛志  
 呼吸器内科 森 彩花  
 消化器内科 高橋 勲  
 外科 吉川 幸造  
 整形外科 平瀬 公威  
 耳鼻咽喉科 記本 直輝  
 麻酔科 松本 弥子

### 転出

内科 山口 佑樹  
 内科 川地 紘通  
 消化器内科 田中 育太  
 外科 四方 祐子  
 外科 宮崎 克己  
 産科・婦人科 笹田 ひかり  
 耳鼻咽喉科 両角 遼太  
 麻酔科 佐々木 秀人

### 退職

呼吸器内科 岸本 伸人 ※任期付短時間職員へ  
 呼吸器内科 香西 博之 ※会計年度任用職員へ  
 放射線科 林 義典 ※任期付短時間職員へ